

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
下 窄 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



2007年2月12日、漏電のため焼損した新上五島町の江袋教会の落成・献堂式は5月9日(日)午前10時30分から高見大司教、長崎県教育長、新上五島町町長、江袋教会信徒代表4人によるテープカットで幕を開け、献堂ミサに移った。落成・献堂式には県教育長、新上五島町町長、地元選出県議、新上五島

江袋教会落成・献堂式 信徒と完成を喜び合う

つた専門委員は、地元信徒が1人でも多く参列できるように、と式典参列を辞退された、という。新聞・テレビなどマスコミ関係者は両脇の通路に三脚など持ち込み取材に



式典終了後は新上五島町石油備蓄記念会館に場所を移して、東島真奈美さんの総合司会で祝賀式(祝辞、工事関係者・専門委員に感謝状贈呈)と祝賀会が催された。江袋教会信徒代表楠本伸慈さんは「全国の皆さまに江袋教会を愛していただき、

け、高見大司教、教区会計の現地視察。その後の大司教の教会再建の表明



総工事費は信徒の浄財をはじめ、文化財指定で新上五島町、長崎県の助成を受け約2億4千万円。現役の木造教会として日本最古とも言われる教会で、パリ外国宣教会のブレル神父の指導と資金援助で1882年(明治15)竣工、大工棟梁は大浦天主堂の建設工事に関与した外海地方黒崎の川原久米吉。木造、単層屋根構成、袴腰(はかまごし)屋根とも呼ばれる変形寄棟造り。この屋根

江袋教会落成・献堂の御礼

5月9日、皆さまの大きな支援によって、江袋教会献堂式を無事に終えることができました。おかげさまで乗り越え、大きな喜びで満たされました。ここに皆さまにご報告するとともに、心から感謝申し上げます。

長崎教区長 高見大司教
仲知教会主任 山田 聡
江袋教会信徒代表 楠本伸慈

被爆マリア像を携え 高見大司教、平和巡礼と国連訪問終える

平和巡礼と国連訪問終える

原爆65年にあたり、戦争犠牲者の安息と世界平和を祈ろうと呼び掛けられたローマ・スペイン平和巡礼(4月20日～5月1日)。また、5年に一度米国ニューヨーク国連本部で開催される核拡散防止条約(NPT)再検討会議に合わせ実施された国連訪問(4月30日～5月7日)。この巡礼と訪問には、浦上教会の被爆マリア像が共にいくのだと、その痛ましい姿は悲しみだけでなく人類の平和と救いの実現を切望する胸のうちを、訪問した先々で人々に訴えた。



被爆マリア像、教皇から祝福を受ける

ローマ・スペイン平和巡礼に参加した34人の巡礼団は4月21日、はじめにバチカンを訪れて教皇に謁見、謁見の終わりに代表者が被爆マリア像を紹介する機会を得た。ベネディクト16世教皇は、被爆マリア像に触れるほ



被爆マリア像、教皇から祝福を受ける

どに手を近づけ、十字を切って祝福した。(写真)は右から高見大司教、浦上教会主任の小島 栄神父、浦上小教区評議会議長(山田一俊さん)

平和巡礼と国連訪問終える

ローマからスペインに移動し、バルセロナ(サグラダ・ファミリア教会、パルセロナ大司教枢機卿訪問)やモンセラート修道院、サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院、フランシスコ・ザビエルの生家、パンプロナなど巡礼した一行は、

ゲルニカでは空爆犠牲者追悼式典とミサに参加。ローマからスペインに移動し、バルセロナ(サグラダ・ファミリア教会、パルセロナ大司教枢機卿訪問)やモンセラート修道院、サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院、フランシスコ・ザビエルの生家、パンプロナなど巡礼した一行は、ゲルニカでは空爆犠牲者追悼式典に参加し、当時の生存者やゲルニカ市民、各地から集まった人々と共に祈りをささげた(3面「人」に関連記事掲載)。

平和巡礼団は日本に帰国引き続き大司教は米国へ

ゲルニカ訪問後の日程も終えた平和巡礼団は5月1日、無事日本に帰国。一方、高見大司教は被爆マリア像を携えて4月30日マドリッドから米国ニューヨークへ渡った。

平和のために働く

現地には、NPT再検討会議に合わせ平和を訴えるために世界各地から人々が集まっていた。大司教は5月1日以降、ニューヨークばつてん会(長崎県をはじめとした北部九州出身者の会)との交流会、聖パトリック教会(カテドラル)におけるニューヨーク補佐司教との共同司式ミサ、カバクトランNPT再検



写真提供/カトリック新聞社

により潘基文(潘・ギムン)国連事務総長(写真右側中央)との会見、国連本部内に永久展示されている聖アグネス像(1983年浦上教会から国連に贈られた)への献花、高須幸雄・駐国連

長崎教区広報委員会 広報委員募集!

長崎教区広報委員会では、「よきおとずれ」編集委員はじめ教区ホームページ委員、メディア対応委員を募集しています。取材や記事原稿作成に興味のある方、写真が好きな方、パソコンが得意な方、一般の新聞やテレビでカトリックの情報を

江袋教会・ごんだ話



復旧した江袋教会の聖堂内に掲げられている「十字架の道行」(写真)。新聞記事で江袋教会焼損を知った福山市の信徒の方が教会のた



聖アグネス像と被爆マリア像の傍らで平和メッセージを述べる

日本大使表敬訪問、フランススカンインターナショナル主催セミナー、バックスクリストディの集い、ドゥアルテ国連軍縮問題担当官との会談、WCRP(世界宗教者平和会議)青年部への話、米国公教協議会国際正義と平和事務局長コレッキ氏との対談など可能な限り出向いてかわり、被爆マリア像を展示し、紹介した。すべての日程を終え、5月7日帰国した。

初めて郷里の上五島に赴任し、あらためてふるさとの良さを感じている。正月と夏に帰省していた地を、毎日車で走り、寝起きするので、「勤務地」に赴任したという実感は薄い。それだけに、馴染んだのだから、すぐ行動を起こすよう期待されてもいるのだから、せっかくなのであるだけの小教区に行つて聖体訪問をする、「よきおとずれ」が入り口に平積みして置かれていたときがある。容易に想像できることだが、これはつまり、「ミサの帰りに、各自自由にお持ち帰りください」という方法を取っているということだ。配布にあたり、いろんな方法が採られていると思うが、「教区報」の使命は、「教区の様子を速やかに伝える」ということが生命線である。どこかで滞ってしまったら、教区長の思いも、教区民の各地での取り組みも、教区民を招く各種の案内も、日に日に鮮度が失われることになる。「落成式のために心ひとつに祈りましょう」と教区報で呼び掛けをしても、翌月にその招きに気付いたのでは元も子もない。広報委員会では、第2週までに「よきおとずれ」が届くよう、最大限の努力を払い、2万部の印刷物を毎月さばき、発送している。手に取る「よきおとずれ」の向こうにあるさまざまな人の思いを、ご理解いただき、一刻も早く最後の一世帯まで届けてくださるよう、切に願っています。(K・N)

2010年度 教区評議会総会 教区シノドスに向けて

2010年度の教区評議会総会が5月2日にカトリックセンターで開かれ、各地区、団体から代表者が参集した(写真)。

午前の部は09年度の決算と活動報告があり、10年度の活動方針・計画・予算が審議され承認された。また、評議会会長の高見大司教は国連訪問中のため出席できなかったが、2015年の信徒発見150周年に開催したいとしている「教区シノドス(代表者会議)」について、小瀬良明事務局長が趣旨や内容、開催までの手順など説明を行った。



午後09年度の教区評議会総会が5月2日にカトリックセンターで開かれ、各地区、団体から代表者が参集した(写真)。

第7回聖書愛読マラソン大会の実施報告。教会共

とばを読み黙想したり、団体有志がリレーして読み進めたりといった、特に工夫が見られた西町教会と黒崎教会の取り組みが最優秀賞に選ばれた。さらにマラソンを推し進めるための分団会も地区別で行われ、最後に派遣ミサをもって閉会した。

【教区評議会】新任あり
会長 高見大司教
副会長 小島栄(司教総代理) 事務局長 小瀬良明(教区本部) 議長 松尾勝(長崎中) 副議長 岩崎静一(長崎南) 黒崎隆一(佐世保) 久松千春(連合婦人会) 書記 西田賢治(長崎北) 小淵光弘(長崎南) 会計 松山勝則(長崎北) 深

堀新光(長崎中) 委員 中浜敬司(信仰養成部長) 紙崎新一(福音化推進部長) 山脇守(教会奉仕者等養成部長) 辻村留雄(平戸) 下田浩二(上五島) 宮崎猛(下五島) 納富美紀(連合婦人会) 橋口嘉子(修女連) 会計 監査 賀川喜美子(長崎中) 戸村リゼ子(修女連) 事務局 中浜敬司、山口和彦、森山浩、若林潔、宮崎善信

教区福音化推進部から お知らせします

「日韓平和交流について」隣国の韓国では、世界に愛と平和の精神を伝えたいと、2004年大邱(テグ)教区で「韓国如己の会」が設立されたが、このほど韓国の青少年を対象に読書感想文を公募し、「如己愛人賞」を授与する。優秀者には長崎聖地巡礼も計画されており、長崎教区もこれを機に韓国との平和交流を模索しようと、7月の授賞式に長崎教区から代表者を派遣し、長崎大司教賞を授与する予定。

核兵器廃絶に向けて 15662人分の署名を提出

この2月、日本政府や各国指導者にあって「被爆地ヒロシマ・ナガサキの司教からの要請」を核兵器廃絶に向けて勇気ある一歩を「要請文が発表された(4月号既報)ことを受け、3月と4月、教会を中心に全国各地で署名活動を行った。長崎教区も司教の要請で独自に約5千人分を集め、4月19日、高見大司教と松浦司教(大阪教区)ら6人が首相官邸を訪れ、合計15662人分の署名を提出した。署名された要請書では、

「平和を実現する人々は幸い。」平和推進に協力をお願いいたします。

核兵器廃絶に向け日本政府の積極的な対応と、米国の保有目的を「他者による核兵器使用の抑止のみに限定する」こと、各国指導者が核兵器廃絶に向けNPT再検討会議で確実な一歩を踏み出す合意をするよう求めている。署名提出に反対した松野頼久官房副長官は「核廃絶については鳩山首相もそのように努力している」などと述べたという。

食後
TL095(821)4577
▼公開聖書講座「マタイによる福音書 そのメッセージは何か?」6月24日(木)19時~20時半 カトリックセンター 講師・高見大司教 前売券800円
問合先・生涯養成委員会 TL095(841)7731

長崎カトリック神学院 香典返し お礼とご報告 ●尾下正夫様(稲佐) 故ペトロ口下聖士様 右の方から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

わたしは高校3年生の時に当時の公教神学校の校長神父さまに「もう疲れました。神学校にとどまる気はありません。99%帰ってきませんので」と言って、学期中に家に帰してもらったことがあります。そのとき校長神父さまから「そうね。99%帰ってこれとね。そんなに残りの1%に賭けるたい」と言われて、自宅に帰りました。

両親に説得され、助任司祭に説得されて、しぶしぶ神学校に戻りました。それはもう、生き恥をさらすような思いでした。当然、ほかの神学生たちは荷物を取りに来たのだと思っていましたから、「先輩、まだ片付けないんですか」と冷やかされ、こんな思いまでしてとどまらないといけないのかと、悔しさではじめて泣きたくなりました。

母親が、手紙をくれました。した。「あなたは生まれなときに、息をしてな

死なない司祭など どこにもいない 中田 輝次

司祭はみな、自分が今あるのは誰かのおかげであるという、その「誰か」を知っているものです。無理に忘れようとして、遠くに追いやりたりしようとするのもある。思うが、自分が今ある根拠を忘れたりはしないのです。人が生まれなときに、息をしてな

死なない司祭など どこにもいない 中田 輝次

司祭はみな、自分が今あるのは誰かのおかげであるという、その「誰か」を知っているものです。無理に忘れようとして、遠くに追いやりしようとするのもある。思うが、自分が今ある根拠を忘れたりはしないのです。人が生まれなときに、息をしてな

死なない司祭など どこにもいない 中田 輝次

司祭はみな、自分が今あるのは誰かのおかげであるという、その「誰か」を知っているものです。無理に忘れようとして、遠くに追いやりしようとするのもある。思うが、自分が今ある根拠を忘れたりはしないのです。人が生まれなときに、息をしてな

死なない司祭など どこにもいない 中田 輝次

司祭はみな、自分が今あるのは誰かのおかげであるという、その「誰か」を知っているものです。無理に忘れようとして、遠くに追いやりしようとするのもある。思うが、自分が今ある根拠を忘れたりはしないのです。人が生まれなときに、息をしてな

ホスチアになるまであと少しー 浦上の子どもたち、小麦の収穫(長崎市辻町)

昨年11月の種まきに始まったホスチアのための小麦(ていが)いよいよ収穫の日を迎えた。5月15日、十字架山近くの畑に集まった浦上教会の子どもたちは、神父さまやシスター、大人の信徒の皆さんの説明をよく聞き、各自手袋をした手に小鎌を持って収穫に取り掛かった。低学年の子どもたちはお兄さん、お姉さんに手伝ってもらいな

から小麦を刈り、皆で協力して小麦の束を運んでいく。作業するうちに手つきもよくなり、収穫した小麦は今後よく乾燥させ、石臼でひき、粉にする。約50坪の畑から最終的にどれだけの粉ができるかはわからないが、できた粉から初聖体の子どもたちのためのホスチアをつくる。初聖体は7月18日。聖体のイエスさまを迎える子どもたちと皆の喜びもひとしおだ。

楽しい「来年もやりたい」などの声が聞かれた。

九州青年キャンプ in 長崎 「We are the ちゃんぽん」 長崎をみんなでさるく!!
日時: 2010年8月28日(土)~29日(日)
場所: カトリックセンターと長崎大司教館
対象: すべての青年
http://mb.minx.jp/qycamp2010

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
☎(095) 862-2469
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

石 碑
墓地工事
写真彫刻
墓地分譲

墓地改修・新設 個人のご相談も承ります

実績 城山教会墓地 飽の浦教会墓地
浜串教会墓地 青砂ヶ浦教会墓地 他 多数

(有)長崎大理石 社長 ヨハネ 濱本直行
本社 長崎市つづじが丘5-1-15 (TEL) 095-839-0374
加工工場 諫早中核工業団地

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436

第27回「雲仙殉教祭」

殉教者をたたえる「雲仙殉教祭」は5月16日、雲仙メモリアルホールで行われ、1800人を超す信徒が参加した。今年で27回目を数える。



この日の説教師、小寺左千夫神父(オプスデイ)は「殉教した人たちは、迫りながら、1800人を超す信徒が参加した。今年で27回目を数える。」

殉教祭は午後1時から松山勝則・実行委員長

のあいさつで始まり、雲仙市・町田義博副市長の歓迎の言葉があった。続いて長与教会の「少年イグナチオの殉教」と題した朗読劇が披露され、会場の拍手を浴びた。



朗読劇

殉教地「古賀」に記念碑 4月25日現地視察式

東長崎教会(内野洋平主任司祭)は、2008年のペトロ岐部司祭と187殉教者の列福を機に地元の殉教地に記念碑建立の機運が高まり準備を進めていたがこのほど

完成し、4月25日に祝別式が行われた。

当日は主日のミサ後、殉教記念碑建立の実行委員村岡正則氏による「東長崎地区におけるキリシタンの歴史と殉教の事実を語り継ぐ」と題する講演があった。「碑に刻まれている古賀地区出身の殉教者12人の中には、3人の福者もいる。今回の殉教碑建立によって殉教者と心がつながり、きつ



た。「殉教の地」は幸せの道だったのです」と説いた。会場には韓国信者ら31人が参加、聖体拝領時には聖歌「いのちの糧」を韓国語で響かせ参加者も声を合わせた。

ミサ後は「雲仙地獄」を一巡し散会した。殉教者の記念碑前では大司教、中村満神父らが祈りを唱えた後、ボーイスカウトによって花輪がさげられた。

「被爆マリア像」と共に巡礼
深堀繁美さん
(浦上教会所属)

ローマ、スペインへの巡礼団は高見大司教ら34人が参加。4月19日長崎を立ち5月1日帰国した。アイルランドの火山爆発で時間的には影響し

サ中は「空爆」と「原爆」に遭った時の年齢は14歳。2人は体験を思い出し、互いに見つめ合っていた。アイルランドの火山爆発で時間的には影響し

フランシスコ
中島勝義さん
(聖ヴィンセンシオ会員)



たが、日程には変更なく関係者をほととさせた。「ゲルニカのカテドラルには空爆に遭ったマリ

出会う。深堀さんも原爆に遭った時の年齢は14歳。2人は体験を思い出し、互いに見つめ合っていた。アイルランドの火山爆発で時間的には影響し

4月26日、長崎大学病院で帰天。長崎市宝来町、城山教会所属。74歳。

戦後65年 からし種・パン種

⑥

戦争は絶対にあつてはなりません

秋月寿賀子

5月のNPT再検討会議にあわせ各地からニューヨークに集まった人々が平和な世界を目指す活動を行ったが、現地のある高校では被爆医師・秋月辰一郎氏(2005年死去。聖フランシスコ病院元院長)の姿を描いたアニメ映画「NAGASAKI 1945」が上映され、米の生徒が原爆について語り合った。

被爆直後の浦上第一病院(現在の聖フランシスコ病院)にはたくさんの負傷した皆さんが運ばれ、集まって来ました。当時のことは、言い尽くせないくらい鮮明に覚えています。体験した出来事は、被爆者の方には誰でもあることではないでしょうか。子ども

の被爆体験を語る方もですが、わたしは大人で、特にけが人をみてきていますからよく覚えています。被爆後、精神異常となる人もいました。自分自身のことだけでなく、我が子、家族が亡くなったたり、たまらなくなりました。

秋月を看護していた時(辰一郎氏は1992年10月に核戦争防止国際医師会議の後、ぜんそくの発作で倒れ、その後意識回復しないまま、13年間の病気で療養していた)は、俳句をたくさん詠みましました。日常のこと、自然のこと、その時々いろいろなことを思いついて詠んでいました。

昏睡の夫よ醒めませ小鳥来る
2005年に、1年かかって映画が完成したと秋月のところに映画社の方が報告に來られて、それからちょうど1週間後

わたしは小さい時から体が弱かったですし、被爆したのにこんなに長く生かされるとは思いませんでした。8月9日、こんな日が二度とあつてはなりません。戦争は絶対にあつてはなりません。

1919年長崎生まれ。看護師として働いていた、爆心地から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。



心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

聖母マリアを深める集い

長崎北地区連合婦人会



合婦人会の司祭年を取り組みとして、召命を育む観点から「聖母マリアを深める集い」が4月29日午後1時半から本河内教会で開催された。

長崎北地区連合婦人会の司祭年を取り組みとして、召命を育む観点から「聖母マリアを深める集い」が4月29日午後1時半から本河内教会で開催された。

長崎北地区連合婦人会の司祭年を取り組みとして、召命を育む観点から「聖母マリアを深める集い」が4月29日午後1時半から本河内教会で開催された。

長崎北地区連合婦人会の司祭年を取り組みとして、召命を育む観点から「聖母マリアを深める集い」が4月29日午後1時半から本河内教会で開催された。

と天国からわたしたちを見守ってくれている。今、いつ戦争が起こるか分からない世界の危うい状況の中、平和に向けた活動が少しずつ芽生えていることは、ありがたいことです。皆さんが生懸命いろいろと活動なさっています。しかし、世界のどこかで戦争はあっています。どうしても、人間的な罪でしようか。戦争で家族を亡くした人たちは特に戦争はあつてはならないと思うはず

わたしは小さい時から体が弱かったですし、被爆したのにこんなに長く生かされるとは思いませんでした。8月9日、こんな日が二度とあつてはなりません。戦争は絶対にあつてはなりません。

1919年長崎生まれ。看護師として働いていた、爆心地から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。

心から約14*の浦上第一病院で被爆。のちに夫となる秋月辰一郎氏と共に被爆者救護にあたり、その後長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。平和を願い祈る日々を過ごす。長崎市計町居住。



ツアル聖フランシスコ修道会日本管区長・崎濱宏美師による祝別式が行われた。崎濱師は「厳しい試練にも耐え、神への愛を完成させた殉教者の思いを日常生活に生かし、互いにゆるし合って平和な心で毎日を過ごそう」と語り、参加者は皆、心豊かに祝別式を終えた。

殉教碑は、信徒や長崎大司教区からの寄付によって建立された。

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

現代の「聖霊降臨」を体験した参加者は、福音にゆかりの深い心で毎日を過ごそうと語り、参加者は皆、心豊かに祝別式を終えた。

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

第125回クルシリヨ 17小教区、神学校から25人参加

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

現代の「聖霊降臨」を体験した参加者は、福音にゆかりの深い心で毎日を過ごそうと語り、参加者は皆、心豊かに祝別式を終えた。

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

マリアポリ2010 黙想・ミサ・分かち合い

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

現代の「聖霊降臨」を体験した参加者は、福音にゆかりの深い心で毎日を過ごそうと語り、参加者は皆、心豊かに祝別式を終えた。

5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

現代の「聖霊降臨」を体験した参加者は、福音にゆかりの深い心で毎日を過ごそうと語り、参加者は皆、心豊かに祝別式を終えた。



5月1日(土)夕方から4日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、17小教区および神学校から25人(男性11・女性13・神学生1)が参加した。

萩市で浦上四番崩れ殉教者の遺骨 4人の頭部など掘り出す―― 流配地での作業は浦上信徒が初めて

140年前の明治初期、政府のキリシタン禁教政策による弾圧で浦上村の信徒3460人が20藩に預けられたが、今年3月から殉教した浦上信徒の子孫、有志が萩市鶴江台におだちやまを訪れ、長州藩に送られた先祖の遺骨発掘調査に乗り出した。



浦上信徒総流配100周年記念誌「信仰の礎」によると、牢獄へ送り込まれた浦上信徒は、満足な食事は与えられず飢え、寒さ、役人の改心を求める厳しい

浦上教会所属の信徒9人で、今年3月5日から5月の連休日にかけて萩市に入り、郷土史家などの話から仮埋葬地・鶴江台の荒地に挑戦し、これまで4人の頭部など遺骨を掘り出す。

萩に流配された信徒は第一次(慶応4年5月)男66人、第二次(明治3年4月)男女合わせて231人。うち35人が悲

「この人が言いつけたらその通りにしてください」

『大変！お酒が足りない』。マリアさまはあわてました。結婚式の料理のお手伝いをしていたマリアさまは、ぶどう酒がなくなりそうなのになにがしたのです。お祝いにはたくさんのお酒が、まだまだ終わらせうにありません。急いで何とかしなければ。マリアさまはお祝いの席にいる息子のイエスさまをそっと呼びました。そして、ぶどう酒が足りないと思えし。イエスさまはちよつと

みことばにふれて64 お告げのマリア修道会 赤窄須美子修道女

お客さんたちはがっかりして怒るだろうし、招待した花婿と家族は、酒もろくに準備できなかったと笑ひ者



たちに言いつけました。『あの人の言うとおりにしてくださいね』とマリアさまに言われていた召使いたちは、井戸へ走ってきびきび

驚きましたが、『これは大変だ』と、マリアさまと同じように思いました。ぶどう酒がなくなったら、楽しいお祝いが台無しになる。まず、水がめに水を汲んでくるようにと、召使



佐世保は長崎教区の中で巡礼地に乏しいとされているが、キリスト教の歴史を振り返りながら、この地で宣教師たちが伝えた信仰が今も確かに息

県議会特別委 堂崎教会など視察

拷問が毎日のように繰り返された。
(写真は鶴江台の殉教者遺骨の発掘作業にあたる浦上信徒)

青年の巡礼ウオーケ 佐世保黒島を巡る

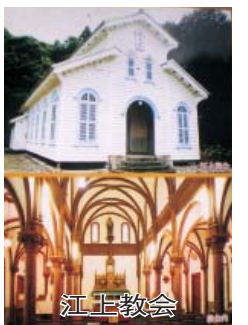
5月3日～4日、教区召命促進委員会が主催し、青年の巡礼ウオーケを行った。青年を対象にしたこの巡礼は5年前に始まり、今年には佐世保・黒島を青年16人、一般信徒4人、司祭2人、スタッフ5人の計27人で歩いた。さわやかな日差しを浴びながら、初日は佐世保の三浦町教会から大野教会にかけて、2日目は黒島教会近辺を巡礼した。

づいていることを学んだ。そして、一人一人が信仰を証しする使命に召されていることをあらためて思い起こした。



信仰、特に神さまから与えられた自らの召命について考えるきっかけとなれ「ばと思う」と振り返った。

12日、世界遺産登録を目指す長崎の教会群とキリスト教関連遺産を構成する五島市内の堂崎教会、旧五輪教会、江上教会の3カ所を視察した。13日は旧野首教会、田平教会など回った。



江上教会

「マザー・テレサ」上映会 佐世保市でも行われます

日時 6月26日(土)13時
会場 インフィニタス江
迎町文化会館
同時開催
通所授産施設サクラミニ
コンサート、親の会バ
ザール
チケット料
前売・当日とも500円
問い合わせ先

峰脇英樹さんの写真展 「ロザリオロード」

桐教会出身で東京在住の写真家、峰脇英樹さんの写真展「ロザリオロード」(期間4月24日～5月30日)が青方教会で開かれ、ミサで祈る人々の表情や教会堂前で遊ぶ子どもたち、それを盛大に楽しんでいる人々の姿が引き付けられた。



多くの人に、建物だけでなく巡礼の道をたどる思いで教会を訪ねていただきたい」と話した。

カトリックセンターで 映画を観よう！

カトリックセンターには350人収容のホールがあります。その舞台に大きなスクリーンを設置し、皆さまと一緒に映画を鑑賞して感動を分かち合いたいと思います。このたび「カトリックセンター映画上映会」を企画いたしました。また東京で大盛況だった「マザー・テレサ映画祭」も、8月21日(土)～29日(日)に開催する予定です。多くの皆さまのお越しをお待ち申し上げます。

「そうだ。今度の週末はカトリックセンターで映画を観よう！」
館長 下窪英知

カトリックセンター映画上映会

主催 カトリックセンター 後援 カトリック長崎大司教区広報委員会

会場 カトリックセンター ホール(〒852-8113 長崎市上野町10-34) 問い合わせ・申込先 (TEL) 095-846-4246
入場料 大人 前売券1,000円(当日1,300円) 小・中高生 前売券600円(当日900円) ※同センター宿泊部にてチケット取り扱い



マザー・テレサ
オリビア・ハッシー主演
6月27日(日)
①13時 ②15時30分
【2回上映】

小さな体に強い意志と愛を秘めたマザー・テレサの真実のドラマをオリビア・ハッシーが演じる。



もも子
長編アニメーション映画
原作 星あかり 音楽 大島ミチル
7月24日(土)
①10時30分 ②13時30分
【2回上映】

酸素ボンベで呼吸するもも子。妹を思う兄。豊かな情操性と娯楽性に富んだアニメーション。



父と暮せば
原作 井上ひさし
出演 宮沢りえ 原田芳雄
8月7日(土) ①13時30分
②16時 ③18時30分
【3回上映】

一発の閃光が人々の運命を襲う。広島を「ヒロシマ」に変え、父と娘の未来を変えた。魂の再生の物語。